

## キリマンジャロの水を 農業に生かす

アフリカ大陸の東、タンザニア北部にそびえ立つキリマンジャロ。世界最高峰とされるこの山は、気候の穏やかな乾期には、世界各地からの登山家でにぎわう。

そのふもとにあるキリマンジャロ州ローア・モシ地区には、どこかなつかしい、日本の田園地帯のような景色が広がっている。そう、キリマンジャロを臨むこの周辺は、巨大な山から流れ出る雪解け水の恵みを受け、アフリカ随一の稲作地帯として発展。高台から見ると、整然と広がる緑の田んぼがなんとも美しい。そしてこの姿は、30年以上わたるJICAの農業支援のためのものである。

JICAがキリマンジャロ州への支援を開始したのは1970年代。当時、地域開



かつては荒地地だったキリマンジャロ州(上)。円借款により圃場整備が進み、美しい田園地帯が生まれた(下)

発を国家政策の柱にしていたタンザニア政府は、州ごとに援助国を割り振り協力を要請。その一つ、キリマンジャロ州を日本が担当することになった。これを受けてJICAは、78年に「キリマンジャロ地域総合開発マスタープラン」を作成。その時に分かったのが、アフリカにしては珍しい、豊かな水源を生かした灌漑農業のポテンシャルだった。これを基に日本は無償資金協力で「キリマンジャロ農業開発センター」を建設。農業普及員を対象にした技術指導に加え、円借款により灌漑施設と圃場の整備を行った。

当時、現地で技術指導を担当した加藤和憲JICA国際協力専門員は、「安定した稲作を行っていくためには、田んぼの数や面積、配置などを科学的に分析し、経路を割り出して均等に水を行き渡らせる必要があります」と話す。1ミリのズレにも妥

## 灌漑技術で

# アフリカの食料問題を改善

2050年には20億人に達するといわれるアフリカの人口。

すべての人の食料需要を満たすためには

域内の農業の生産性向上が必要不可欠だ。

JICAはアフリカの農業問題にいち早く着目し、30年以上にわたり協力を実施してきた。

た。

協せず、現地の技術者とともに用水路などの建設に取り組んだ。すると、ローア・モシ地区には、1100ヘクタールのきれいな長方形の田園地帯が出現。「その姿を見た時の感動は鮮明に覚えています」と加藤専門員は振り返る。灌漑施設が整備されたことで、稲の収量は4倍にまで跳ね上がった。



幹線水路をコンクリートを使って舗装(上)。タンザニア州では灌漑施設完成後、一期作目から大豊作だった(左)

さらに、このキリマンジャロでの経験を普及すべく、JICAは94年から「キリマンジャロ農業技術者訓練センター計画」を実施。同センターがタンザニアの稲作技術普及の拠点となるよう、灌漑技術者やモデル地区の農家の能力向上を支援。また、近隣国に対しての研修もこのセンターを舞台に行われた。そして現在、JICAは07年から「灌漑農業技術普及支援体制強化計画」を通じて、全国40カ所のモデル灌漑地区に、キリマンジャロ州で確立された灌漑技術の全国展開に取り組んでいる。

## コメ生産の5割を支える ケニアのムエア地区

タンザニアだけでなく、JICAはこれまで、サハラ以南アフリカで75件(08年)の農業支援を実施。そして、ケニアの首都ナイロビから北東に100キロ、ケニア山

を水源とした複数の河川が流れ込むムエア地区にも、20年にわたるJICAの協力の蓄積があった。

ムエア地区は、ケニアが50年代から独自に灌漑整備を続けてきた場所。しかし、施設の維持管理がきちんと行われず、老朽化が進む一方だった。これを受けてケニア政府は80年代、この地区に対する支援を日本に要請。隣国タンザニアで先行していた、灌漑整備の実績を買ってのことだった。

JICAは89、91年、ムエア地区内の灌漑施設の復旧・改修を無償資金協力で実施。91、96年には、ムエア灌漑農業開発センターの研究・研修棟を建設し、水管理、灌漑排水、水稲栽培、農業機械などの技術指導を農業普及員に行った。このようなJICAの支援に後押しされ農民たちも農作業に励み、ムエア地区の水田面積は5860ヘクタールから1万ヘクタール、年間のコメ生産量は2・7万トンから4万トンにまで

拡大。国全体の年間米生産量の5割以上を占めるまでになった。近年ではケニアが直面している干ばつや食料不足に対応すべく、JICAはムエア地区で再び灌漑施設の整備を円借款で行うことを決定。また、農家の所得増加を通じて持続的な生産性の向上を果たすべく、2011年1月から技術協力を実施している。

さらに09年、JICAは国際社会と協働で、アフリカで新たな農業支援に乗り出した。そのベースとなっているのが、日本が第4回アフリカ開発会議(TICAD IV)で提唱した「アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)」。急速にコメの消費量が伸びているサハラ以南アフリカの需要に対応すべく、今後10年間で同地域のコメ生産量の倍増を目指すという方針だ。JICAはこの地域で培ってきた農業支援の経験と技術を糧に、現在、各国のニーズに応じた取り組みを進めている。



ケニアのムエア地区の田園風景。JICA専門家の技術を受け継ぎ、現地の人々により灌漑施設の維持管理や水管理などが行われている



ローア・モシ地区で取水施設の建設に取り組むタンザニア人の作業員。「灌漑施設が整備されたことで、私たちの生活も豊かになりました」

# History

次世代への財産